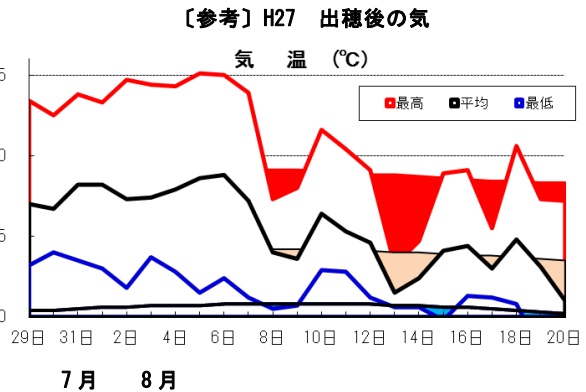
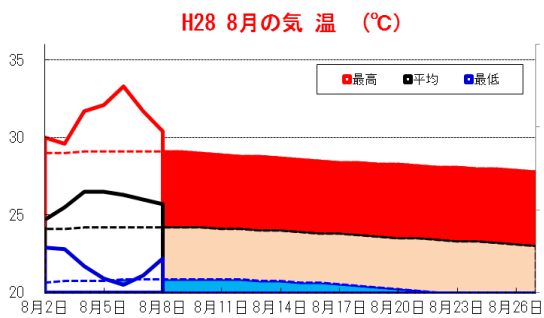
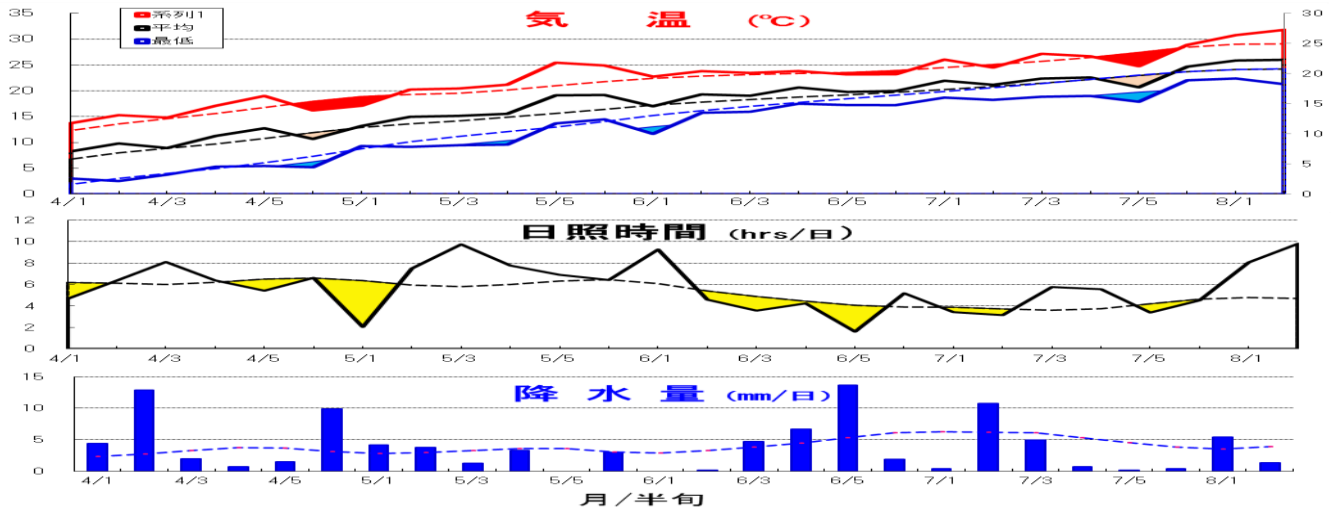


～出穂は8月2日（平年より3日早い）品質維持のため水が必要～

1 気象経過



- ・7月～8月も依然として気温は、やや高温に経過し、多照傾向である。
- ・出穂後の気温を昨年と比較するとやや低いものの、高温傾向が続いている。

2 生育状況

〔出穂状況〕

区分	出穂始期 (5%)	出穂期 (50%)	穂揃期 (95%)
本年	7月29日	8月2日	
前年	7月26日	7月29日	8月7日
平年	8月2日	8月5日	8月11日
平年差	4日早い	3日早い	

出穂状況比較(%)				
H28		8月1日	8月4日	
		38.9	71.1	
H27	7月27日	7月30日	8月3日	8月6日
	12	61.1	87.5	94.4

※ 平年値は平成18～27年の10か年のうち最も早い年と最も遅い年を除いた8か年の平均値を用いた。

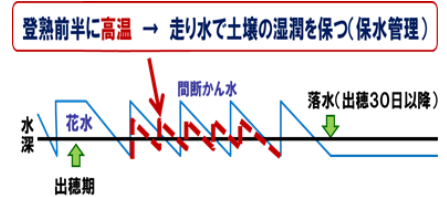
- ・出穂期は8月2日で平年より3日早く、前年より4日遅くなった。
- ・出穂状況を比較すると、本年は8月4日で71.1%（前年8月3日で87.5%）となっている。

3 今後の管理

(1) 品質向上のための水管理

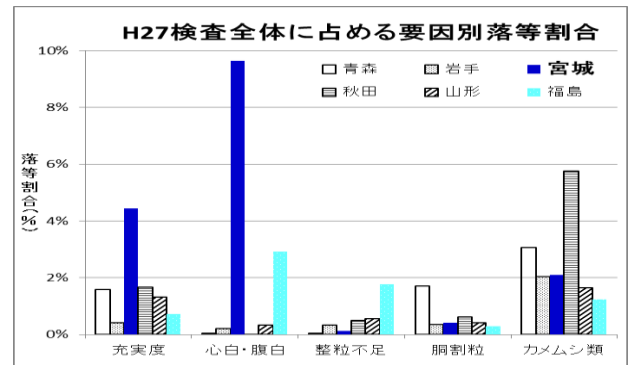
- ・ 県内の圃場を見ると出穂後にもかかわらず、水のない圃場も見受けられる。白未熟等の発生防止のため、下表等を参考に可能な限り水による高温障害回避策を講じること。

水管理方法	概要	効果
掛流し灌漑	気温より低い用水の掛流し	大 水の確保が最大の課題(毎分 200~300L 必要)
昼間深水 夜間落水	晴天時にできるだけ深く、夜間は落水	中 水量が少なくて済む。効果は掛流しより小さい。
保水管理	灌水せず走水等で土壌を湿潤に保つ	小 水利・水量がより少なく、煩雑さが無い。効果は掛流しより小さい。



【参考】H27年の白未熟の発生

右の図にあるように、2等への落等要因を見ると宮城県が心白・腹白で全体検査の9%を占めている。



(2) 病虫害発生状況 (病虫害防除所 予報 8号)

① 穂いもち - やや少

- ・ 葉いもちの発生地点率、発病株率ともに平年より低かった。
- ・ 上位2葉における葉いもち病斑数も平年より少なかった。

② 紋枯病 - 平年並

- ・ 発生地点率は平年よりやや低く、発病株率は平年より低かった。

③ 斑点米カメムシ類 (アカスジカスミカメ) - 平年並

- ・ 水田周辺の牧草地・雑草地・畦畔では、アカスジカスミカメ成虫の発生地点率は平年並で、すくいとり頭数は平年よりやや少なかった。

